

ふるさと

第 17 号



我が家の窓から

目 次

第4回お国自慢発表会	(1)
第5回(平成28年度)定期総会資料.....	(6)
九州へ鉄旅に行ってきました	(9)
関東36不動霊場巡り	(10)
【連載】隠岐流人秘帳(その7)	(13)

発行 :2017年4月15日(第17号)
発行 : 麻生ふるさと交流会事務局
担当 : 平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：平塚 征英 さん
タイトル：我が家の窓から
撮影月日：2017. 4. 13
撮影場所：たまプラーザ団地
記事：適当な写真がなくて困りました。こんな写真で我慢のほどを。

「麻生ふるさと交流会」ホームページ
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

2016 年度第4回お国自慢発表会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり
日 時:平成29年2月18日(土)
13:30~17:00
参加人数34名、懇親会34名

第1部 お国自慢発表会(13:30~15:30) 司会:宮本さん 【敬称略】

1. 開会の辞……松本会長の挨拶

- ◇ 今までの会報で「隠岐流人秘帳」を連載させて頂いております。
- ◇ 編集者より、そろそろ、後鳥羽上皇と後醍醐天皇の話をして！とのお話がありましたので次回には書きたいと思っております、まことに短い挨拶がありました。



2. 講師による講演

①【麻生の小鳥たち】 伊東 紘さん(野鳥が大好きで写真撮影をしています)

- ◇ 野鳥観察の仕方、テクニック…近づいて観察する極意は、ダルマさんが転んだ！
- ◇ 鳥と仲良くなり、鳴き声を覚えましょう
- ◇ ウグイスは繁殖期と非繁殖期は鳴き方も変化する…音声を交えて



伊東さん



ウグイス



メジロですよ！

- ◇ 身近な野鳥のスズメやカラスにまず親しみましょう。
- ◇ スズメはかわいいですか？



こちらのホッペの方が
カワイイ？

スズメはかわいい？ 拡大すると！ ニュウナイスズメ

- ◇ カラスが好きな方はおりますか？ 私は大好きです。

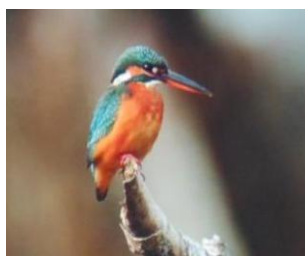


都会ではハシブトガラス



田んぼではハシボソガラス…NET から

- ◇ 野鳥の羽の構造などからヒントを得て、近代を代表する飛行機・新幹線・戦闘機や薬品など様々な分野で応用されています。
- ◇ 新幹線の先端部分～カワセミ:メスとオスは下クチバシの色が異なる。(赤と黒)



メス



オス

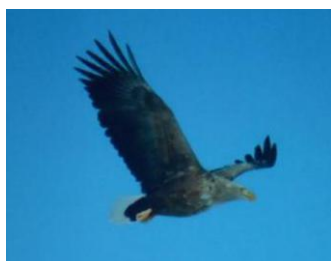


新幹線の先端

- ◇ 戦闘機の尾翼～ツバメ



- ◇ 旅客機の主翼の翼端～鶴やワシなどの風切りばね



★ 大変貴重な写真と珍しいお話を有難うございました。

②【麻生の歴史ロマン】 会員:飯塚洋三さん(一昨年はお城の話でした)

飯塚さんは麻生歴史観光ガイドの会代表です。ガイドの会では、年7回、麻生区内の名所旧跡をガイドしています。本会の松本良樹会長は、ガイドの会の名誉顧問です。

最初に、上記7回のコースのDVDの内、旧上下麻生村コースの放映と解説の後に、麻生区の歴史についての説明がありました。



旧上下麻生村コース



秋葉神社



浄慶寺・羅漢さん



月讀神社



麻生不動



参拝

- ◇ 麻生区は昭和57年多摩区から分離
- ◇ 黒川村から早野村に至る10ヶ村が柿生村となった。
- ◇ 黒川、栗木、片平、上麻生、下麻生、王禅寺、五力田、古沢、万福寺、早野この地域は徳川家のご領地であった。
- ◇ 2代將軍秀忠の正室お江の方の伝説などを披露されました。

③【民謡タイム】吉岡さんと仲間の皆さんによる

- ◇ 伊藤由紀子さん 日向小挽唄(宮崎県)
- ◇ 吉岡市雄さん 酒屋唄(秋田県)
- ◇ 平松和夫さん 秋田馬方節(秋田県)
- ◇ 千葉敏見さん 長持唄(宮城県)
- ◇ 尺八は野上さん、お囃子は神田さん



伊藤さん



吉岡さん



平松さん



千葉さん

3. 今後の予定……宮本事務局長

- ◇ 次回の交流会は4月15日に定期総会。
- ◇ お国自慢発表会は7月15日です。

4. 会歌「ふるさと」の合唱…カラオケ楽会の川口さんと五十嵐さんのリードで。



第2部 懇親会 (15:40~16:50) 司会 新井さん

1. 今回の乾杯の音頭は、民謡タイムの吉岡さんをお願いしました。
2. 與那覇さんが、昨年秋の叙勲で瑞光双光章を授与されました。ご本人から挨拶がありました。長年にわたる保護司のお仕事をされた事に対する授与だそうです。
おめでとう御座いました。
3. 今回も多くの方々から、有難い差し入れを沢山頂きました。有難うございました。
 - ◇ 日本酒(常きげん・七賢無濾過生原酒・愛宕の松・来福超辛口・浦霞・蓬莱・栄川)、えびすビール、泡盛古酒宮の華…鈴木・民謡の会・平塚・吉田・宮本・宮河、民謡の会・與那覇さんの皆さん
 - ◇ 料理・おつまみ(しもつかれ、しそ・あじフライ、金柑の甘煮)…平塚・宮河・吉岡さん
(記録漏れがありましたら、ご容赦のほどを)



お酒が沢山！エビスも！



料理・おつまみも沢山！



こんなに沢山の料理・おつまみですが、、、30分後には？



始まりますよ～



今や遅し！



乾杯は吉岡さん



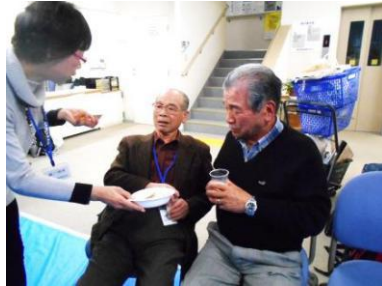
講師の伊東さんも



さあ～食べるぞ～！



與那覇さん:おめでとう御座いました。 確か女性優先では？



民謡のご披露を有難うございました。

民謡 vs カラオケ？



指紋は大丈夫です！

ガイドの会の皆さんと

民謡タイム:ありがとう



民謡タイムの提案者

中締めです！

ガイドの会新旧代表



素晴らしい協同作業で、あっという間に

現状復旧おわり

お疲れ様でした。

麻生ふるさと交流会 第5回(平成28年度)定期総会

日 時:平成29年4月15日(土) 13:30~17:00

場 所:市民交流館 やまゆり

1. 第5回(平成28年度)定期総会 次第 13:30~14:10

【敬称略】

- (1)開会の辞…辻村副会長
- (2)議長挨拶…松本会長(質問は最後にまとめて)
- (3)平成28年度 活動報告…松本会長・宮本
- (4)平成28年度 決算報告及び監査報告…吉田・白石
- (5)新年度運営委員の選出…事務局
- (6)平成29年度 活動計画…松本会長・宮本
- (7)平成29年度 予算計画…吉田
- (8)質疑応答…松本会長
- (9)閉会の辞…辻村副会長
- (10)会歌・ふるさと合唱

2. 外部講師による講演:(司会:辻村副会長) 14:20~15:20

☆ “登戸研究所”は何をしたか~科学者の戦争協力の問題~

…近藤 昭二 様(ジャーナリスト)

3. 懇 親 会:(司会:新井) 15:30~17:00 (参加費:1,000円)

- ・乾杯
- ・新旧運営委員の挨拶
- ・懇親の時間

「ふるさと」(故郷)

文部省唱歌

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 兎追ひし彼の山 | 雨に風につけても |
| 小鮒釣りし彼の川 | 思ひ出づる故郷 |
| 夢は今も巡りて | |
| 忘れ難き故郷 | 3. 志を果たして |
| | いつの日にか歸らん |
| 2. 如何にいます父母 | 山は青き故郷 |
| 恙無しや友がき | 水は清き故郷 |

【麻生ふるさと交流会】平成28年度活動報告

実施日	回次	内 容	講演会	懇親会	備 考
H.28.04.29(土)	第1回	総会	31名	24名	
H.28.07.23(土)	第2回	①7グループ小発表(瀬戸内・福井・京都・東京2・宮城・新潟)	35名	30名	
H.28.10.08(土)	第3回	②麻生の蝶、北海道ハイク旅(1)	28名	26名	
H.28.11.26(土)	第4回	③北海道ハイク旅(2)、ふるさと磐梯町	35名	28名	
H.29.02.18(土)	第5回	④麻生の野鳥、麻生歴史ロマン	34名	34名	
総会・お国自慢発表会4回			163名	142名	
H.28.01.29(日)	第6回	「秦野市県人会のつどい」参加交流	5名		

<運営委員会>

H.28.06.14(木)	第1回	7/23イベントの打合せ他	12名		
H.28.09.01(木)	第2回	10/8イベントの打合せ他	10名		
H.28.10.25(木)	第3回	11/26イベントの打合せ他	10名		
H.29.01.12(木)	第4回	2/18イベントの打合せ他	12名		
H.29.03.29(水)	第5回	平成28年度総会の打合せ他	10名		
小計			54名		

* 平成29年3月31日現在の会員数は67名です。

* 平成28年度の会報は、第13号から第16号まで4回発行した。

麻生ふるさと交流会：平成29年度 活動計画(案)

実施日	回次	内 容	講演会	懇親会	備考
H29.4.15	第1回	第5回(平成28年度)定期総会	あり	あり	13:30～
		登戸研究所(近藤昭二氏)			14:20～
H29.7.15	第2回	美帆・カンディンスキー夫人に 講演を依頼。交渉中	あり	あり	13:30～
H29.10. 10/14or28	第3回	民話 遠野の語り部(大平さん) 会場の予約は6月1日に確定	あり	あり	13:30～
H30.1月 又は2月	第4回	麻生区の義経伝説ほか 今後検討	あり	あり	13:30～
H30.3月	第5回	麻生区の歴史ロマン 今後検討	あり	あり	13:30～
* 今年度の行事予定として「麻生区観光ガイドの会飯塚会長の講演」を予定。					
* * 未発表の県、既発表の都道府県のふるさと自慢・民謡など随時実施。					

★H28年度決算報告と H29年度予算計画は、総会当日配布資料の通りです。

九州へ鉄旅に行ってきました(3月12日～13日)

森 信夫

「或る列車」は「ななつ星 in 九州」設計の水戸岡鋭治氏がデザイン・設計。

「或る列車」の旅の魅力は「ななつ星」の車内に負けないような質の高い車内空間と、九州の厳選した食材を使用した至高のスイーツコースを同時に楽しめるということです。ということで、長崎駅から大村湾ぞいを走って佐世保駅まで約3時間の列車旅を満喫してきました。

「或る列車」とは、



明治39年(1906年)、当時の「九州鉄道」がアメリカのブリル社に豪華客車を発注したものの、「九州鉄道」が国有化されたため、活躍する機会のなかった「九州鉄道ブリル客車」、通称「或る列車」。当時の日本で最も豪華な設備を備えていた“幻”の豪華客車とのことでした。

この列車は客車ではなく、国鉄時代のキハ47系通勤ディーゼル車を改造した(作り直した?)車両です。改造車とはとても思えません。



長崎駅1番線から乗車は赤絨毯を踏んで乗ります



1車両に3名のアテンダントがいます



車内は高級ホテル並みで金装飾の豪華さでした



食事はおしゃれでプレミアムワイン飲み放題でした

「ななつ星 in 九州」は予約が取れませんが、「或る列車」はリーズナブルな料金で乗車可能です。

関東36不動霊場巡り

平塚 征英

サンキン会・お遍路の会は、「つなみ巡礼」と題して、平成23(2011)年9月から、東日本大震災による多数の命の鎮魂・冥福を祈ると共に、仲間との楽しいウォーキングを開始しました。

平成28年5月まで5年間にわたり、稲毛33観音(3巡)・鎌倉33観音・江戸33観音を巡礼し、まさに百寺巡礼を結願いたしました。昨年9月からは、多摩川の両岸に点在する「多摩川34観音霊場」を6回に分けて巡礼しており、今年5月には結願の予定です。毎回25名程度が参加し、6～8キロのコースです。参加者の平均年齢は約73歳。ゴール後の反省会が楽しみです。

武相28不動霊場は、川崎市8寺・横浜市17寺・東京3寺の計28寺で構成され、1968年(昭和43年)に開創された新しい霊場です。お不動様の守り年である酉年の5月1日から28日までの間、ご開帳されます。平成29年度「つなみ巡礼」は、9月～来年5月に、この武相28不動巡りを行う予定です。

酉年の今年は、関東36不動霊場も1月から12月にかけて、ご開帳となります。

関東36不動霊場は1986年に制定された不動霊場です。札所寺院は、神奈川県7寺・東京都19寺・埼玉県5寺・千葉県5寺の計36寺が、4都県にまたがっており、それぞれを四国88箇所と同様に発心の道場・修業の道場・菩提の道場・涅槃の道場と呼んでいます。

関東36不動霊場には、第36番成田山新勝寺、大山詣で知られる第1番大山寺や第9番高幡山金剛寺の関東三大不動、目白・目赤・目黒・目青・目黄の江戸五色不動など、南関東にある有名な不動寺院が多数含まれています。

関東36不動霊場は、札所が川崎市から遠隔地にも点在するため、団体での巡礼は困難なので、今年酉年が年女の連合いと、週末にゆっくり巡ることにしました。

第1回目は2月26日(日)、第2回目が3月4日(土)で第3回目の3月19日(日)までの3回で、6札所を巡りました。

第1回目:2/26(日) 第1番雨降山大山寺(伊勢原市)、第2番大雄山(最乗寺)道了尊(南足柄市)

やはりお遍路は1番札所から始めようと、1番大山寺と2番道了尊から巡り始めました。

近くのバス停から6:56始発バスに乗り、新百合ヶ丘から小田急線で伊勢原へ。バスで大山ケーブルバス停まで。ケーブル乗り場までの参道の登りで、体力の衰えを実感させられました。

大山寺は大山ケーブルがすれ違う大山寺駅で下車し、平坦な山道を徒歩5分の所にある。

本堂前の石段はかなり急で、両脇に36童子像が並んでいる。風よけビニールを開いて本堂に入り、読経を行う。家内は初めてだったが、開経偈から般若心経・不動明王ご真言・回向文までの一式を、ゆっくり唱えた。四国88札所巡りの際に、写経の殆どを代行して貰ったが、写す方が夢中で読み方は二の次だったようだ。納経帳カバーとご朱印を頂き、最初の参拝が終わった。



折角だから、ケーブルで山頂駅まで登り、大山阿夫利神社をお参りした。

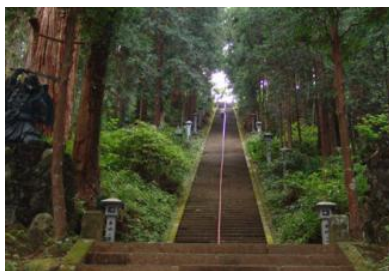
阿夫利神社の御祭神の大山祇大神は別名を酒解(さけどけ)神といわれ、酒造の神として、その御神徳が広く知られているそうです。醸造の安全と酒類業界の隆盛発展を御祭神に祈願するために、毎年5月末の日曜日に酒祭りを行っているようです。大山利酒講を中心とした業界関係者による利酒会が行われ、一般の方も参加できると、仲間から聞いた情報です。



最乗寺へは小田原まで出て、大雄山線に乗換え終点からバスで10分だった。印象的だったのは、大きな高下駄と300段もの階段を登る奥の院だった。2・3日は筋肉痛で悩まされました。



高下駄



奥の院への石段



奥の院

第2回目:3/4(土) 第29番不動山洞昌寺(長瀬町)、宝登山と宝登山神社

洞昌寺は千葉県以外では最も遠い札所なので、長瀬岩畳と宝登山口ウバイ園観光を兼ねた一日コースとした。7:37電車に乗り、渋谷・和光市・森林公園・小川町・寄居経由で、秩父鉄道長瀬駅一つ手前の野上駅まで約3時間、さすがに遠い札所でした。

野上駅を降りるとハイキング姿の人達が多いのに驚く。洞昌寺は駅から約2キロの往復。国道から脇道に入ると、のどかな農村風景となる。



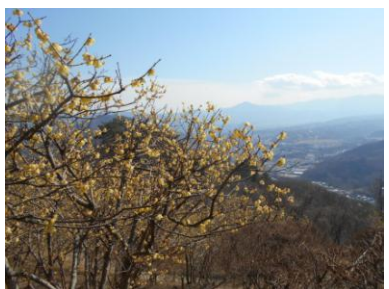
洞昌寺奥の院は苔不動の別名があるが、洞昌寺は長瀬秋の七草寺の萩の寺となっている。質素な本堂に昇って読経を行い、ご朱印を頂く。同じようなお参りをしている3組と出会った。

一つ先の長瀬駅まで行き、岩畳をほんの少し見てから蕎麦昼食。まあまあの味。長瀬駅前から宝登山ロープエー山麓駅までは、駅前からシャトルバスを利用。

宝登山はロウバイ園で名高い所ですが、3月上旬では遅すぎるのでは？との懸念も、場所によっては未だ未だ良い香りのロウバイを見ることが出来たので、ほっとしました。

隣の駅で逢った人達は、ハイキングコールで、この宝登山頂上を目指したのではと思われた。頂上付近からは、遠くに秩父市街地が望まれ、大変良い景色でした。

ロープエーで山麓駅に降り、宝登山神社も参拝して帰路についた。



第3回目:3/19(日) 第8番高尾山薬王院、第10番田無山総持寺、第11番亀頂山三寶寺

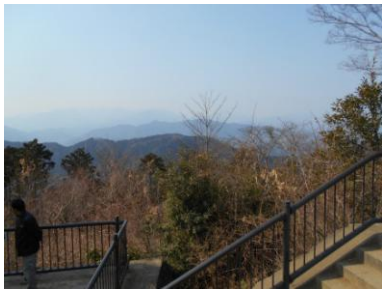
少し早起きして6:39電車に乗り、溝の口・分倍河原・高尾山口経由でケーブル乗り場の清滝駅には、始発8:00の前に到着。手軽な山として人気が高い高尾山なので、ケーブル駅も混雑していた。ケーブル終点高尾山駅からは、一号路表参道コースの平坦な道を歩く。

高尾山薬王院の山門を入ると先ず目に付いたのは、北島三郎「高尾山」の歌碑だった。参道途中の杉苗寄贈者名にも北島三郎の名があったが、八王子在住というのも関係しているのかも。



本堂で参拝してから、頂上へのルート of 不動堂を経て、標高599.15mの頂上までは約20分だった。関東の富士見百景の一つであるが、富士山は霞んでよく見えなかった。

今回の楽しみの一つは高尾山の蕎麦で、清滝駅近くの店に入り、自然薯蕎麦・お酒と天狗蕎麦を注文。天狗の耳は大きな黒いキクラゲだった。



西武新宿線の田無駅は、週に数回は途中下車し、飲み屋に寄った懐かしい駅です。あの頃は月200時間以上の残業をした後でも、遅い時間に飲み屋に寄って看板近くまで飲んで、一駅半も歩いて独身寮に帰ったこともしばしばだった。さすがに50年前の面影は全くなく、飲み屋街も消えてショッピングモールに変わってしまっていた。

総持寺は青梅街道沿い約10分の所にあった。お寺の印象より、下り方向のタクシーが中々捕まらなかったことなど色々思い出された。



三寶寺は上井草駅からバス利用だったが、駅前のバス停が見つからず苦労した。石神井公園の三寶寺池の由来になった寺で、石神井不動尊と呼ばれている。境内の奥之院は高野山の根本大塔を模した宝塔である。

参拝後に近くの石神井公園を散策している最中に携帯電話が掛かり、飲み仲間の入院見舞いの話だった。



隠岐流人秘帳（その7）

松本 良樹

我こそは 新島守よ 隠岐の海の 荒き波風 心して吹け

歌聖として有名な後鳥羽上皇の配流は、隠岐の流人史を彩る上で、欠くことの出来ない大事件であった。この日本海の孤島、隠岐の島で悲憤の涙にくれること19年、ついに志成らずして、この島で哀れにも波乱の一生を閉じられた。

物語は今から700年余の昔に遡る。鎌倉時代の初期、承久3年春(1221)上皇は朝権回復を夢見て、北条氏追討を計られたのであったが、謀(ハカリゴト)は空しく敗れた。

怒濤の勢いで関東の武士が京都を蹂躪するや、上皇は同年7月北条泰時の手によって隠岐に流されることが決まった。

かくて『承久3年7月13日京都を発せられた上皇は、27日美保関に御到着。ここで侍二人、女官、医師それぞれ一人を残し京からお供して来た人たちともお別れになり、隠岐行き帆船の風待ちをされた。

8月4日隠岐島に御到着(吾妻鏡)。上皇が隠岐行きの船に乗られたのは、前後の事情からして旧8月3日と思われる。この頃は大型の台風の子節である。何となく海もざわめいている。その上、上皇の船旅としてはあまりにも粗末な漁船での御渡海であった。特に島根半島の地蔵岬と知夫島付近は、名にしおう海の難所だ。大自然の猛威は泰時以上にすさまじい。

激しいご気性の上皇ではあったが、さすがにこの荒れ狂う隠岐の海には、草臥れられたとみえ、有名な“新島守よ……”の歌は、この船中で読まれたと歴史は伝えている。

命からがら船中で一晩明かされた上皇は、わずか四人の共を連れ隠岐島に着かれた訳だが、昔に変わる悲しみの御身の上と昨日の時化(シケ)に身も心もやりきれなかったのだろう——、こんな哀れな歌を残された。

命あれば 芽が軒端の 月もみつ 知らぬは人の 行く末の空

8月5日上陸地島前(トウゼン)の崎村をご出発になられた上皇は、山越えをされて海士(アマ)の苜田郷に向かわれたが、その途中牧場で頭を突き合わせて戯れる子牛の群れをご覧になり、大変珍しがられて喜ばれた。以来、上皇はたびたび牛を突かせてご覧になられた。これが今この島に残っている名物『牛突き』の始まりだと言われている。

隠岐の海士では、勝田山の源福寺というお寺がそのお住まいにあてられた訳だが、上皇が海士村にお住まいになることを希望されたのか、幕府の命によって海士村にその行宮が決められたのか、あるいは現地の役人が適当に決めたのかは、今もって定かでない。

こうした法制史的解釈は、未だ何人によってもなされていない。しかし、恐らくは次の三つの理由から上皇の行宮が海士村に決まったものと考えられる。

① 海士は本土に最も近い。このことは討幕の企画をなさるほど激しいご気性の上皇のことだし、



肩本着色後鳥羽天皇像(国宝)

承久の乱に敗れた後鳥羽上皇は出家して隠岐に流される前に絵師藤原信実(ノボリ)に肖像画を描かせた事が吾妻鏡に見える

配流後も沢山の刀剣鍛冶などを招く一方～北面武士に対し武事を奨励したぐらいだから～必ずや再起を期しておられたと考えられる。他にも色々理由がある。(後述)

こうした時のためにも、上皇ご自身が本土に近いこの地を強く希望された。

- ② 海士は、島前随一の穀倉地帯である。流人は昔から貧富の差によって割り当てられた。流人数もそうであったし、身分の高い人は富める村に、低い者は貧乏な村にと配流地が決められた史実がある。当時においても裕福な海士が、その対象にふさわしかった。
- ③ 上皇といえども、一応は流人(獄令によるものではないが)だから、幕府は特に上皇の脱出を警戒していたと思う。島の領主 佐々木安清をして、十分監視するよう命令したに違いない。さすれば、佐々木氏は当時この地方の豪族ナンバーワンだった村上一族を、上皇の脱出監視と世話役として選んだのであろう。

ともかく上皇は同島海士村の勝田山源福寺を行宮とお決めになられた訳だが、そのお住まいは『人離れ、里遠き島の中なり、海面より少し引き入りて、山陰にかたそえて、大きやかなる巖の峠を便りにて、松の柱に葦葺(イシュウ)ける廊などけしきばかり事そぎ足り』(増鏡)とあり、かやぶき、三間造りの粗末なものだったらしい。



後鳥羽天皇宸翰手印置文(国宝)水無瀬神宮蔵(歴仁2年)

隠岐に流されていた後鳥羽上皇が崩御の13日前に書いた自筆の遺言状。文面には上皇の手印が鮮明に付されている

ここでのお暮しは、明けても暮れても鎌倉幕府討伐の気持ちに終始されたよ

うだ。上皇の激しいご性格を示す資料は今でもかなり沢山ある。英明だったと伝えられる上皇は、この島から京都の北面武士とはいつも連絡をつけておられた。こんな話もある――

備後の国(福山)の吉田一族は上皇に招かれ、出雲の国に城を築き上皇をお迎えしようと謀ったが、このことが鎌倉に知れて失敗した。しかし、上皇は最後まで決して望みを捨てず、ご自身も武技に励まれた。そして九州地方から三か月交替で助宗ほか六人の有力な刀鍛冶を選んで招き、この島で練刀にあたらせた。

またご自分でも槌をとり、刀を打たれた。こうした刀には十七葉の菊の紋を打った。これが有名な“**菊一文字刀**”なのである。当時の刀鍛冶が使ったと思われる“ふいご”がいまでも島に残っている。しかし鎌倉方にも人材があったとみえて、こうした上皇の自由は認めながらも、ついにこの島からは上皇を一歩も外に出さなかったのである。

それから135年の後、後醍醐天皇がご脱出、ご帰還になられた場合と考え合わせて、北条氏の全盛を物語るものである。しかし、19年の島流しは、かなり長い期間である。

上皇は気を紛らわすこともないままに、雨につけ風につけ、ただひたすら都を焦がれ続けられたとあります。(『隠岐島誌』)

当時、上皇がお作りになった“隠岐百首”などの和歌は、その頃の模様を余すところなく伝えている。行宮の付近は松林に覆われており、その近くに小さな勝田ヶ池がある。ある日のたそがれ時、行宮に夕闇が濃くせまっていた。上皇は望郷の思いがいよいよ募り、いらいらして居ても立っても居られない風情である。島特有の季節風も、にわかになりに強く立ち始めた。先程からやかましく鳴く蛙の声に、松の音が加わり上皇の神経を一層かきたてるのである。耐え兼ねた上皇は、

いらだつ気持ちを

蛙(かわず)鳴く 勝田ヶ池の ゆふだたみ きかましものは 松風の音

と眉をひそめられた。するとあれほどうるさく鳴いていた蛙の泣き声も、忘れたかのようにやみ、寒々となり続けていた物凄い松音もぴたんと止んだという。以来島人はこの松を『音無しの松』と呼ぶ。しかしこの老松数百年の内に枯れてしまったのか、今あるのは二代目音無しの松であるとのことだ。またある年かん高く血を吐くように鳴く“ほととぎす”の鳴き声を聞いた上皇は、

鳴けば聞く きけば都の恋しきに この里出でよ 山ほととぎす

とお詠みになった。それからは、さすがのほととぎすも、哀れなこの歌に同情してか、ぴったりと鳴かなくなったという。多才で有能な上皇が、いかにこの島で無念の日々を送られたか、そのお気持ちが手に取るように分かるのである。

それから135年たって、後醍醐天皇も同じ北条氏(高時)によって、この島に流された訳だが、ほととぎすの鳴かぬこの島で、天皇は都で聞いたほととぎすの鳴き声を恋しく思われ、“ほととぎす”を次のようにうたわれた。

聞く人も 今は無き世に ほととぎす 誰に怖れて 鳴かぬこの山

するとこの苅田の郷にも、再びほととぎすが鳴き始めたというのである。単純な伝説ではあるが、聞く人の胸を打つものがある。

おなじ世に またすみのえの 月や見む 今日こそよそに 隠岐の島守

明けても暮れても幕府の打倒と、都への還幸だけを夢見られていた後鳥羽上皇は、延元元年二月二十二日(1239)60歳で哀れ、この島で亡くなられた。そして島人たちの手によって荼毘(火葬)にふされたのである。今は当時行宮のあった海士村源福寺のすぐ側に、そのご火葬場がある。上皇があれほど焦がれていた幕府の追討、朝権回復は、その後もなかなか実現せず、それから実に星霜600年の後、明治天皇によって、やっとなされた。

かくて明治6年、後鳥羽上皇神霊奉還の奉迎使がこの島を訪れたのである。その時の正史は、正三位 慈光寺有仲公、副使松尾助永。奉迎使は大阪鎮台兵一個小隊(約100人)を引連れ来島した。(『隠岐島誌』) 当時、隠岐は鳥取県に属していたので、同県からも大属佐善元主ほか警官数十人が渡島護衛にあたった。奉迎使は持参の白木唐櫃に、上皇自ら彫られたと伝えられる木像一体とご愛用の神剣(菊一文字)の二点を納め持ち帰った。

あけて翌明治7年、鳥取県は隠岐支庁に次のように通達している。

『後鳥羽天皇ご火葬所本殿並びに膳貝、簾れ、幕、ちょうちんなど取り払い焼却の上、御同所本殿跡へ埋置せよ、敷石はそのまま積置相成べく候条、大工人夫始め諸入用費明細往復を除き五日限り差出すべき事、明治7年4月25日』

そこで上皇をお世話し、亡くなられた後も600有余年の長きにわたって、御陵修理などにひたすら奉仕した村上家が、人夫50人を雇ってこれに当った。まず上本殿を取り払い、諸道具を焼き、これらの灰を埋めるため本殿跡を掘り起したところ、素焼きの高さ約6cmの甕が発見された。驚いた村上家では、さらに竹べらで丁寧に掘ったところ同甕の真下から、今度は高さ54cmの信楽焼きの甕が、さらにその下からは高さ52cmの甕と三重に重ねられた大小三つの甕が次々に発見された。内容を改めたところ、一番上の甕の中からは銅製の金属類の器物と、1厘銭5~60枚が出た。

二番目の甕からは、周囲の土と明らかに色の違った火葬時の灰と思われるものが出た。そこで最も下に埋めてあった三番目の甕は、おそらく上皇のご遺骨と思われたので、恐れ多しとして中身は改めなかった。(『村上家略記』)

上皇のご遺骨は、延応の昔(鎌倉時代)藤原能茂が奉持して京都府大原の西林院に納めた(『増鏡』・延応の条)と記されているが、それはごく一部分であろうと思われる。

また『島根県史要』には村上家からの報告で、その後勅使がこの島に渡り、全てを還幸したように書かれているが、これは明らかに間違っている。明治6年以來、勅使がこのために隠岐に渡った事実はない。して見れば隠岐島海士町こそは、事実上の後鳥羽天皇御陵の地というのが正しいように思える。最後に文豪小泉八雲の言葉を借りよう――。



後鳥羽上皇御火葬塚(海士町中里)

後鳥羽帝の御陵は、松江月照寺にある松平家の、どの墳墓よりも、その凜々しさにおいてこそ劣れ、隠岐が世にしめす最上のものだろう。高い垣、重々しい木柱を白壁にした棚が、長さ45m、幅15mの地面を囲んで域内は全く松木の影に覆われている。

地は三壇に築きあげられ、一番背後の垣の真ん中に白色の扁石がある。これが墓標。全体の様子簡潔なれど、何処となく悲愴の趣があつて人をして肅然、崇高の情を起こさせる。森閑たる山ふところ、鈴虫の鳴音、わずかにその静寂を破るのみ。それはあたかも神前で、巫女が奏する鈴の音に似ている。

以上が隠岐出身の近藤泰成氏の隠岐流人秘帳よりの転載です。

ここで、村上家の事について簡単にご紹介しておきましょう。

永禄9年(1566)毛利、尼子の抗争の頃には、郷土を率いて尼子方の海賊を打ち破り、周辺地域を守りました。その功績によって、毛利氏の武将 小早川隆景から感状と来国光の短刀などが贈られたという記録があります。

その後は武力活動を経済活動に切り替え、隠岐を拠点に下関や大阪との間に海運業を営むなど、地域を牽引して栄えてきました。慶長13年(1608)徳川家康によって、この島に流されていた飛鳥井雅賢(マサ幼)から当時の36代 村上九右衛門秀親が『助九郎』を命名され、以来、当主は代々この名を継承しています。

飛鳥井家は和歌と蹴鞠の名門です。雅賢は近衛少将でしたが、海士に流された罪名は何と“放蕩”です。具体的な罪状は分かりません。隠岐にある時は、源福寺隣地に住んでいました。やんごとない流人を預かってお世話をする役の村上家当主は、飛鳥井雅賢から家伝の和歌と蹴鞠とを伝授され、蹴鞠の免状を授かった時に名前も付けられたのだと伝わっています。(既刊 その5 ～蹴鞠～ 参照)

村上家は隠岐観光の名所の一つとして、今日も見学する事が出来ます。

最後に、小倉百人一首を作った藤原定家が、この悲劇の上皇の歌を第99番に取り上げています。

人もをし 人もうらめし あぢきなく 世を思ふゆえに もの思う身は

後鳥羽院33歳、鎌倉幕府との軋轢が増す中、思うようにならない現実直面し、苦しい心中を吐露した歌である。「をし」は「愛(お)し」で「恨めし」と対になっている。「あじきなく」は「つまらなく」で下の「世を思う」にかかる。「もの思う身は」初二句に続く倒置法。この句を結びにおくことによって、後鳥羽院の心情がいつそう深く伝わってくる。

この歌から9年後、絶望的な状況の中で討幕の兵を挙げるが失敗。(承久の乱)
隠岐へ流され、その地で19年、60歳の生涯を閉じられた。

百人一首 最後の第100番は、後鳥羽院の息子 順徳院の歌である。父と同じく承久の乱に敗れ、佐渡への配流となる。

ももしきや 古き軒端の し のぶにも なほあまりある 昔なりけり

天智天皇(第1番)、持統天皇(第2番)の明るく、おおらかな歌で始まった「百人一首」は、後鳥羽院と順徳院の悲憤慷慨の歌で終わる。この間600年、世は武家の時代に移っていく。朝廷が再び歴史の表舞台に出るのは、さらにおよそ600年後、幕末の大政奉還まで待たなければならないのである。

(つづく)